7月14日の宣教要旨

マタイ10：1～15 「宣教への派遣」 林保郎牧師

主イエスは、弱り果て、疲弊した「飼う者のいない羊のような」群衆に慈愛の視線を注ぎました(マタイ 9:36)。彼らは、神の助けと支えが必要な人々でした。主の慰めと宣教の働きは、そうした人々に向けられました。

主は12名の使徒を招集し、彼らに悪霊への権能を授けます。主の業は、使徒たちに託されました。宣教の働きは、①病の癒し、死者を復活させる、②悪霊の除霊、③天の国の接近の告知、を中心としていました。「教え」よりも、人への多様で具体的な働きが重視されています。使徒たちの業は、*ミア*である主イエスの地上の働きのための道備えだったのです。

使徒の派遣にあたり、身辺の道具や物を最小限にして、福音に相応しい人を見つけ、神の平和を宣言して、その家に留まるように命じられます。神の守りと養いに信頼することがこの言葉の背後にはあるのです。

宣教を拒否する者には、拒絶の意志を示せ(言行録 13:51)と命じられます。主に授けられた福音は、決して虚しく帰ることはありません。神の御心を実現し、神の使命を成し遂げます(イザヤ 55:11)。主に従い、信仰の道を歩む私たちも、主の恵みに励まされ、神の国の幸いを告げ知らせる使命を託されているのです。